

尾崎白浜地区の 復興計画について

尾崎白浜地区 まちづくり構想

復興交付金事業
防災集団移転促進事業
《事業実施 H24～26年度》

復興公営住宅の整備
尾崎白浜・佐須地区：10戸
H24年度着手予定
(旧尾崎小学校跡地)

被災施設【市の施設】

集会・消防施設
・コミュニティ消防センター
(消防屯所第3分団第4部)

これまでの懇談会の開催状況

内容	日程		参加人数
第1回まち懇	5月14日	町内会(佐須と合同)	48名
第2回まち懇	6月24日	町内会	27名
第3回まち懇	9月27日	町内会(主として被災者)	17名
第4回まち懇	12月16日	〃	28名
第5回まち懇	2月25日	〃	23名
まち懇	4月7日	(仮称)復興まちづくり推進委員会	10名
まち懇	今 回	町内会、地権者	

これまでの地域からの意見と対応状況(1/2)

地域からの意見	対応状況
浸水しない箇所での道路整備	浸水しない避難路を検討 ●
小学校を壊さないで公営住宅を整備してほしい	今回の交付金の事業で校舎を解体し公営住宅以外に集会所、屯所などの併設を検討中。 ●
戸建て再建への支援もほしい。	配布資料で検討してほしい
浸水したところの盛土は？	漁業集落防災機能強化事業で買い上げた上での整備を検討 ●
浸水域に家を建てたい場合の規制は？	配布資料より、住居には適さない土地としたい。

● は、後で平面図で説明します

これまでの地域からの意見と対応状況(2/2)

地域からの意見	対応状況
防潮堤が少しも上がらないのは不安。	壊れない湾口防、防潮堤で浸水域は縮小する結果。 ●
土地の買い上げはいくらか	震災が無かった場合の8割程度が県の調査で出ている。 実際の買い上げは、今後、個々に調査される。
公営住宅のほうが早いのか	用地確保が市有地であるためその分は早い。
何年後に住めるようになるのか。	事業に同意を得て予算が付けば、26年度には住める様にしたい。
小学校用地を移転地に優先して足りない分を下の盛土造成地で整備して、少しでも早く住めるように。	災害公営住宅の希望戸数から配置して、検討する。

土地利用計画図(案)

(2月末に示したもの)



住宅再建調査 ('12.2末実施)結果概要

被災者の方 24世帯へのアンケート結果

- 住宅再建の方法

高台に整備される住宅地に再建	8名	12名
元の土地 or 高台の住宅地	3名	
元の土地に再建	1名	
公営住宅に入居	3名	
地区外(含、平田の公営住宅)	8名	
未回答	1名	

復興土地利用計画図(案)

(2月末のアンケートを踏まえた計画)

